



集落支援だより

明けましておめでとうございます。

地域おこし協力隊 集落支援担当の小松です。

今月はふるさとまつりでの集落支援担当ブースの様子をお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当
こまつ しんじ 小松 慎吾 隊員

雨の中の「お米食べ比べ」

10月25日(土)、26日(日)に行われた西会津ふるさとまつり。私たち集落支援担当の協力隊員は、雨の降る日曜日に出席しました。活動内容の展示や、その昔、木地師が使っていた道具などを紹介する小道具紹介スペース、そして、日頃お世話になっている農家さんからお米を仕入れ「新米3種類食べ比べ」を行いました。このお米は一般向けの販売ではなく、あくまで自家



▲お米を楽しむ来場者の皆さん

保有米として消費している農家さんから仕入れました。「なんで売らないんだ!」と思うほどクオリティが高く、実際に試食されたお客さんからも「この米を買いたい!」「どこで買えるんだ!」といった感想も聞くことができました。(私もそう思います)

雨の中ではありましたが、普段話をする機会がない皆さんと交流できたり、西会津が多くの人で賑わっている!という超貴重な場所で開催出来たことは、我々にとっても実りのある1日となりました。

こんにちはー!! 協議会でーす!!

10月23日、奥川地域づくり協議会の若手メンバー4人で福島大学に向き、岩崎由美子教授のゼミで出前講座を行いました。同ゼミの学生は、これまでも協議会が実施する人足(地域作業)活動に毎回参加し、奥川での作業を手伝っていたいています。

しかし、これまでは1泊2日という短期間で活動が行わ



▲福島大学で講義する面々

れていたことから「なぜ人足を行うのか」「限界集落の再生とはどういうことか」といった背景を十分に伝える機会がありませんでした。

そこで今回、岩崎教授のご協力をいただき、授業の時間に協議会の活動内容や人足の意義、地域が抱える課題について講座を行いました。

講座では、25人の学生が参加し、地域づくりや中山間地域の現状について活発な意見交換が行われました。学生の皆さんからは「実際に現地で体験してみたい」「地域と大学が協力して活動することの

意味を感じた」といった感想が寄せられました。

そして11月30日、奥川で行われた堰上人足には、ここから9人の学生の皆さんが参加しました。田んぼ作業に一见結びつきが難しいとも思われる「堰上げ」に一定数の理解をいただけたと思います、我々もホッとしています。

今回の講座をきっかけに、今後も大学との連携を深めながら地域の活性化につなげていきたいと考えています。ちなみに「若手メンバー」に「42歳が入っているぞ!」という突っ込みはお控えください。

これから迎える 初めての冬

この原稿を書いているのは11月で、西会津は順当に冬に向かっています。子供たちは「早く雪が降らないかな」と話しており、私自身も若干楽しみにしているところです。はたして、これを実際に読んでいる自分が同じことを思っています。除雪機は買いました!